

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理アセスメント法Ⅱ		(発) 必修 (社.精) 選択	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
鈴木 真吾	B309	shsuzuki		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的>心理アセスメント法の高度な専門知識と技術を習得して、結果の解釈を報告書にまとめる記述技法を獲得する。</p> <p><概要>心理アセスメント法の中でも、本授業では投射法および質問紙法による人格検査を体験する。体験した検査は全て「自己分析」してレポートにまとめる。全ての回を登校による対面授業で行う。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 (<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク)				
学習上の助言	レポートの合格には誤字脱字も一切認めないので、課題を最後までやり切る熱意を求める。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	「心理査定実践ハンドブック」氏原・岡堂・亀口・西村・馬場・松島(編) 創元社				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理学に基づくデータ分析、解釈ができる。			WP (3) (5)	
②	心理学の知識を活かして、性格(人格)の特徴を記述することができる。			WP (3) (5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	エゴグラムを体験・解釈する。	講義・演習	検査結果を復習して整理する。	3	
2	自己分析レポートの記述方法を学ぶ。	講義・演習	レポートを作成する。	5	
3	YG 性格検査を体験して、結果をまとめる。	講義・演習	検査結果を復習して整理する。	3	
4	YG 性格検査を解釈する。	講義・演習	レポートを作成する。	5	
5	バウムテストを体験して、結果をまとめる。	講義・演習	検査結果を復習して整理する。	3	
6	バウムテストを解釈する。	講義・演習	レポートを作成する。	5	
7	SCT を体験して、結果をまとめる。	講義・演習	検査結果を復習して整理する。	3	
8	SCT を解釈する。	講義・演習	レポートを作成する。	5	
9	描画投射法を体験して、結果をまとめる。	講義・演習	検査結果を復習して整理する。	3	
10	描画投射法を解釈する。	講義・演習	レポートを作成する。	5	
11	PF-Study を体験する。	演習	検査結果を復習して整理する。	2	
12	PF-Study の各指標を整理する (1)。	講義・演習	指標の算出結果を整える。	3	
13	PF-Study の各指標を整理する (2)。	講義・演習	指標の算出結果を整える。	3	
14	PF-Study を解釈する (1)。	講義・演習	検査結果を復習して統合する。	5	
15	PF-Study を解釈する (2)。	講義・演習	総合レポートを作成する。	7	
試					

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	100	0	0	0	
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	30	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	30	0	0	0	30
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	20	0	0	0	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	体験した全ての心理検査について個別のレポートを課す。心理学の知識を正しく活かして自己を分析した後、性格（人格）に関して検査報告書の形式に沿った文章として仕上げる。フォントや文字下げ等の形式的マナーから、誤字脱字や的確な日本語表現等に至るまで仔細にチェックされる。ミスがまったくないレポートになるまで再提出を求められる。定期試験は受検した全てのレポートをまとめて自己分析を行う総合レポートを課す。				提出された全てのレポートについて修正すべき点を指摘した上で、自己分析へのコメントを付して授業内にて返却する。またレポートを作成時の質疑応答は Teams でも受け付ける。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員							
教員の実務経験	本科目の担当講師は、臨床心理士及び公認心理師資格を有し、18年の心理相談業務の経験がある。						
実践的授業の内容	医療（精神神経科・小児科）及び教育（スクールカウンセラー・発達への特別支援）の現場経験を活かして、性格と人間関係の理解に係る真摯な見識を学生に教授する。						
そ の 他	出席は検査体験ごとにカウントする。2回以上連続で授業を行う検査では1回の欠席でも複数回の欠席と見なす。こうした評価方法が本授業独自の基準であるため、初回に必ず参加して説明を受け、納得して受講登録をすること。なお、福祉心理学科学生のみ受講登録を認める。また、対面授業であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。						